

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院実績報告書

病院名： 愛知医科大学病院

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院設置要綱に基づき、下記のとおり報告します。(令和7年5月1日現在)

1. 病院の機能及び医師等の配置

項目	該当
一般社団法人日本アレルギー学会の認定教育施設であること	○
内科、小児科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科領域の診療科が全て設置され、その医師が常勤していること、または、愛知県における小児アレルギー疾患医療の中心的な役割を担っていること	○
アレルギー疾患に関する専門的な知識と技能を有する薬剤師、看護師、管理栄養士等が配置されていること	○
〔配置状況〕エピペンの使用に当たって、講習会を開催し、受講者が取扱いできるように教育している。 患者や看護師に、吸入指導教育を行っている薬剤師が複数名所属している。	

医師の配置	アレルギー学会会員数	うち専門医数	うち指導医数
内科	9	4	2
小児科	5 (内非常勤 3)	2 (内非常勤 2)	0
皮膚科	1 (内非常勤 1)	0	0
眼科	0	0	0
耳鼻いんこう科	0	0	0

2. アレルギー疾患に関する「情報提供」「人材育成」「学校、児童福祉施設等におけるアレルギー疾患対応への助言、指導」の取組

	実 績 (令和6年度)			今 後 の 予 定 (令和7年度)		
	診療科	対象者	内容	診療科	対象者	内容
情報提供	内科	医療従事者	第73回アレルギー学会学術大会(10月)座長(伊藤理)・シンポジウム(伊藤理)演題発表(深見)	内科	医療従事者	第74回アレルギー学会学術大会(10月)座長、演題発表(伊藤理)
	内科	医療従事者	第6回アレルギー学会東海地方会(3月)座長(伊藤理)・演題発表(神谷)			
	小児科	医師	ミニレクチャー「気を付けよう！ナツツアレルギー」(第48回名古屋東部地域小児科診療ネットワーク 2024.6.22)			
	小児科	医師	ミニレクチャー「ナツツアレルギーについて考えよう」(第11回尾張東部・豊田小児医療研究会 2024.12.6)			
	皮膚科	医師	Nagoya Atopic Dermatitis SUMMIT(2024.4.3)講演			
	皮膚科	医師	AD治療のベストユースを考える会(2024.7.3)講演			
他	内科	医療従事者	第5回日本喘息学会学術大会(7月)シンポジウム(伊藤理)	内科	医療従事者	第6回日本喘息学会学術大会(8月)座長(伊藤理)
	皮膚科	医師	アトピー性皮膚炎治療イブニングセミナー(2024.12.4)講演			
人材育成	内科	市民	愛知県アレルギー講演会(7/27長久手市)講師(伊藤理)	内科	市民	愛知県アレルギー講演会(9/6 ウインクあいち)講師(伊藤理)
	内科	医療従事者	第11回総合アレルギー講習会(3/22神戸)講師(伊藤理)			
他						
助言指導	内科	医療従事者	愛知県公害健康被害認定審査会委員	内科	医療従事者	愛知県公害健康被害認定審査会委員(会長)

3. アレルギー疾患における「診療」「研究」の取組

	実 績（令和6年度）	今 後 の 予 定（令和7年度）
診療	内科：喘息、好酸球性疾患、アレルギー性疾患、血管炎症候群、薬剤性肺炎の診療	内科：左記に同じ。
	小児科：小児気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、アレルギー性鼻炎・結膜炎、慢性蕁麻疹など小児における全てのアレルギー疾患に対する適切な診断と治療。	小児科：左記に同じ。
	皮膚科：アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、蕁麻疹などのアレルギー性皮膚科疾患の診断、治療	皮膚科：左記に同じ。
	眼科：アレルギー性結膜炎、薬剤アレルギー眼病変、膠原病眼病変の診療を他科と連携して行っている。	眼科：左記に同じ。
	耳鼻いんこう科：アレルギー性鼻炎、アレルギー性真菌性副鼻腔炎、好酸球性副鼻腔炎、好酸球性中耳炎などの疾患に対する診断、治療を一般診療の中で行っている。	耳鼻いんこう科：左記に同じ。
研究	内科：気管支喘息、自己免疫性肺胞蛋白症、薬剤性肺障害、リウマチ肺の臨床研究（講演、学会発表、論文、著書）	内科：左記に同じ。
	小児科：小児気管支喘息における生物学的製剤の臨床的有効性と安全性の検討	小児科：左記に同じ。
	小児科：難治性アトピー性皮膚炎の背景因子の検討と治療法の確立	小児科：左記に同じ。
	小児科：食物アレルギーにおける安全な経口免疫療法の確立	小児科：左記に同じ。
	小児科：小児アトピー性皮膚炎の新しい治療薬の有効性と安全性の検討	小児科：左記に同じ。

4. アレルギー疾患に関する特記事項（独自の取り組み）

内科：自己免疫性肺胞蛋白症に関しては、日本のセンター病院の一つとして症例の集積、治療を行っている。

内科：数多くの薬剤性肺障害症例の治療、管理を行っている。

小児科：慢性蕁麻疹（特発性血管性浮腫）との鑑別が必要な遺伝性血管性浮腫の診断